

令和2年度 第1学期 始業式 式辞

新型コロナウイルス感染症の状況も改善の兆しは見え、大阪府、兵庫県には緊急事態宣言がされました。京都においても感染者の増加と其中で、感染経路が分からない事例 つまり、「どこで感染したか分からない事例」が多くなっている状況です。それは、どこでも感染しうる状況といってもよい。「感染爆発につながる危険性は十分にある」と認識してください。この危機感をみなさんと共有したいと思います。

このような状況を踏まえ、本校は4月13日（月）から5月6日（水）まで臨時休業とし、4月10日（金）までは、その準備期間とします。

この後の各分掌の先生の話やHR担任の先生の話をよく聞いて、対応をしてください。

各行事をはじめとした本校の教育活動も残念ですが、一定の制約や、延期、中止があると考えておいてください。現状の危機感を共有し、引き続き、十分な感染症対策の中、注意をして行動をしてください。

さて、1学期のスタートに当たって、3つお話をします。

まず1つは、この本校が大切にしてきた「あたりまえのことを、徹底して実践する」という姿勢です。これを言い換えると「凡事徹底」といいます。

具体的には、「時間を守る」「場面に応じた挨拶がしっかりとできる」「掃除を隅々までしっかりとやりきる」などが行われてきたと思います。今年度もこれを主体的な気持ちで徹底して実践してください。

昨年度、それに加えて、「相手の立場に立って考え、行動ができること、相手を思いやること」を実践してきたと思います。

まだまだ、いやがらせや自転車交通マナーの問題など相手の立場に立って考え行動できないことが起こっています。今年度も、あらゆる場面で「相手の立場に立って考え、行動ができる」ように取り組んでください。

2つめです、

本校のさまざまな活動を、主体的な気持ちで取り組んでください。そのためには、「やらされている」、「いわれてやっている」状態から「やろう、やってみよう」、「壁はあるがぶつかっていこう」などという気持ちで取り組むことが重要で、これを昨年度、「MUST～しなければならない」と「WANT～したい」、2つの英語の単語で説明したと思います。意識しないしていると、知らず知らずの間に「MUST」だらけの世界となってしまいます。これでは、生きていても「しんどいな」ということになり、考えが消極的になってしまいます。

「人生をより良く生きる」ためには、「この～しなければならないMUSTの世界」を、いかに工夫して「～したいWANTの世界に変えていく」ことができるかが重要となります。

今回、この休業期間中の課題作成や制約がある中でのさまざまな活動について、工夫を重ね、「MUSTの世界」を「WANTの世界」に変えてほしいと思います。是非とも挑戦してください。

最後、3つめです。3つめは、「ストレスに負けない心の強さ」を本校で育ててください。

最も重要なものが「周囲との良好なコミュニケーションの構築」です。周囲とのつながりは、暖かい心理的な支えとともに、困ったときに具体的な解決方法を獲得する機会を提供してくれます。「心の強さ」は、相互につながりあう集団の強さがベースにあって育つものです。それは、単に、仲良くすることではなく、厳しい訓練を共に支えあい、励ましあって乗り越えていく中で育まれます。そして、集団の一員としての役割を果たし、認められ、所属することによって得られる安心感が基盤となっています。信頼できる仲間とのつながりは、大きなストレスに立ち向かう時の大きな心の支えとなります。

本校では、保健体育の授業、部活動や清掃活動、専門学科の授業など様々な場面で、このことを意識した取り組みがなされています。みなさんがお互いに、楽しいだけではなく、厳しい教育活動にも、相互につながりあい、認め合う関係をしっかりと作って乗り越えてください。そして、不確実で不透明な今後の未来に、ひるむことなく立ち向かえる力「ストレスに負けない心の強さ」を身につけてください。

今学期、さまざまな制約の中でも、最大限の工夫を行い、実りの多い学期となることを願い、式辞とします。

令和2年4月8日
京都府立京都すばる高等学校
校長 三橋 利彦